

変わりゆく藤枝

一字一筆

静岡の今

少子化に伴う人口減対策が国や地方自治体の喫緊の課題になっている。静岡県総人口は直近の国勢調査(2015年)では370万305人で、何とか370万人台を維持したが、その後も減少傾向に歯止めはかからず、県都静岡市の推

計人口は70万人を切って、全国20政令指定都市で最少となった。

県統計調査課によれば、前回調査(2010年)より人口が増えた県内市町は三つ。長泉町(15688人増)、藤枝市(14544人増)、袋井市(9433人増)である。

人口減対策の「優等生」である藤枝市が、都市のイメージを大きく変えようと

している。市の玄関口、R藤枝駅周辺の再開発事業である。

市では人口減少と高齢化に対応するには中心市街地の活性化が不可欠と判断。藤枝駅を中心に約160haを「中心市街地」と設定して、2008年3月から新しいまち造りを始めた。5年間の1次計画で駅南口を改造、続く5年間で北口駅前に高齢者施設、子育て支援施設、高層住宅などを整備、来年4月には駅を中心に「新都心」が誕生する。

一足先に整備された南口には商業施設やホテルなどの高層ビルが林立し、ビルの壁面を利用して電光ニュースが流れる。夜には駅前広場の動物オプジェのイルミネーションがオシャレな都会的雰囲気を漂わせる。

藤枝市は、東海道五十三次の「藤枝宿」だった。東海道線が敷設される際、宇津ノ谷峠(静岡市)―藤枝宿―島田宿のルートが検討されたが、地形が険しいことから海岸沿いの焼津―藤枝―島田に変更されたという。このため、1889年開業した藤枝駅は昔から地域の中核だった宿場町から約3km離れていた。

藤枝宿に近い藤枝市田中に田中城跡がある。かつては地域の中心地にあった城跡では、恒例の菊花展。菊の香りの中で天守櫓が「新都心」を見つめていた。

前静岡県監査委員
富永久雄



JR藤枝駅南口の動物オプジェ―藤枝市。舎目写真。村越敏さん撮影